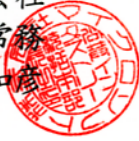


有限責任中間法人日本 IHE 協会
代表理事 石垣 武男様

マイクロソフト株式会社
執行役常務
大井川和彦



貴協会 7 月 19 日付質問状に係る弊社回答につきまして

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日ごろより弊社事業に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度は、日経新聞において弊社の意図と異なる内容の報道により、貴協会会員の皆様にご迷惑をおかけしたことを、深くお詫び申し上げます。

7 月 19 日付でいただきました、貴協会からの質問状についての弊社の見解を、以下のとおり回答させていただきます。

今後とも、弊社への変わらぬご指導、ご鞭撻をいただきますようお願いいたします。

敬具

2007 年 8 月 21 日

貴学会より拝受した質問状につき、下記にご回答申し上げます。

ご質問 1. 貴社の言われているCHP実現のための具体的な方策について。例えばアプリケーションシステムの相互連絡の実現に向けて現状分析と課題の抽出、その解決策の提案事項、特に既存または準備プロセスにある各種IHEインテグレーションプロファイルとの関係。

弊社回答

弊社のCHPにおいては、基本的にBiztalk Severを活用したシステム間の相互連携を想定しております。各種IHEインテグレーションプロファイルとの関係においては、今後弊社としても貴協会に参加させていただき、どのような可能性があるのか検討させていただきたいと考えております。また、米国本社においても、IHEとXDS.bというWeb Service仕様や標準に対応する相互運用のためのプロファイル策定に関して共同で動いています。このプロファイルについて試行的な実装をしてもよいというIHEの承認をとり、2008年のIHEコネクタソンでのテスト、HIMSSでのデモも予定されているとのことであり、このような米国本社の動きなども貴協会にてご紹介させていただきたいと考えております。

ご質問 2. 貴社の構想が貴社の産物のみに依存していない普遍的なものなのか。

弊社回答

弊社のCHP構想は、医療分野における各種標準化推進団体の成果である各種標準に基づき、患者および医療サービス従事者本位の医療システム構築の実現を目指して整備中のものであり、日本における活動におきましては、日本IHE協会を含む諸団体のご指導のもとに進めていきたい所存です。

また、医療システム全体に関する基本的な考えといたしましては、上述のCHP構想においてのみならず、同時に発表いたしましたCHART構想においても、また、その他の活動におきまして、医療現場に携わる実務レベルの専門職方々のご意見、貴協会をはじめとする標準化推進団体、関連学会のご意見を賜りながら、特定の社の産物に必ずしも依存しない、普遍的なIT資産の有効活用形態を目指すものと考えております。

ご質問 3. IHE Japanの活動についていかなる認識をされているのか。

弊社回答

弊社は、まだ日本IHE協会に参加しておらず、残念ながら貴協会の活動について十分な理解をしているとは申し上げられません。これを機会に、弊社としても是非貴協会

の活動に参加させていただきたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

以上、ご回答申し上げます。

2007年8月21日